

年次支部ニュース

第13号



2020年 ご卒業まことにおめでとうございます

中央大学学員会会長
久野 修 慈



今年、卒業された皆さんは社会人として、あるいは大学院等に進まれる方もいるでしょう。どちらに進んでも中央大学の卒業生として学員（同窓）となるわけです。中央大学学員会は、約57万人の全卒業生で構成されている団体です。学員会の目的は、母校中央大学への支援と全学員間の親睦交流にあります。

近年の少子高齢化社会のもとで、入学者も大きく減少にいたる問題として、学生の確保に大学間の競争時代になりつつあります。中央大学では、平成27年に中長期計画が策定され、今年は5年目を迎え、随所にその施策実行が求められています。昨年4月には、国際経営学部、国際情報学部が開設され好評を得ています。また、法学部の都心展開、更に

は、学員会本部が入居している駿河台記念館は、17階建のシンボルタワーとして建て替えられます。このように各施策が展開されつつありますが、大学入学志願者の減少など大学間競争も激化する中で、大学当局が自ら確実に施策を実行することが重要なこととなります。昨年の中央大学のスポーツは目覚ましい成果をあげています。今年はオリンピック・パラリンピックの開催で、スポーツを通じて人間力の向上にも結び付けることが期待されます。学員会としても学員が一丸となって支援していく所存です。

皆さんは、これから社会人としてより充実した人生を謳歌することを期待していると思います。令和の新しい時代の若者として頑張ってください。学員会と交わ

りをもち活用してください。

学員会の構成は、各卒業年度で構成する年次支部があり、各支部を横断的に交流する年次支部協議会が幅広く活動しています。また、全国の都道府県に地域の支部、職業区分による職域支部があります。卒業生は、これらの希望する支部を選んで入会出来ます。そして、交流のネットワークの下にゆるぎない絆となり、終生交流を図れるでしょう。

卒業生の皆さん、明るく健康で気概のある若者となって国内外の企業や地域社会、学校などでお役に立てるよう前進してください。我々は、皆さんが各支部に入会されることを心待ちにしています。どの支部も若い学員を大歓迎しています。

中央大学陸上競技部(長距離ブロック)

この春学窓を巣立つ卒業生を代表して、陸上競技部長距離ブロックの田母神一喜主将に大学での4年間を振り返っていただきました。

田母神主将は福島県郡山市出身。高校時代は石川町にある学法石川高校まで自宅から片道50分かけて通学。恩師が中大で4年連続2区を走り、最後に総合優勝した時のメンバーだった松田監督。中距離が専門の田母神選手は800m、1500mが得意。2019年アジア選手権で1500mの日本代表選手に。藤原監督に請われ、4年生で長距離ブロックの主将に抜擢されました。
(聞き手：年次支部協議会広報部 榎本、佐藤)



Q：中距離を選んだ理由は？

A：ユースの世界大会を見ていて「自分もトラック選手として出てみたい」と思いました。高校では駅伝も走っていたので長距離へ行く道もあったのですが、大学に入って「自分が求めているのは箱根じゃない」と思いました。それで「トラックをやりたい」と監督に申し出て、寮を離れプロチームに入って横田真人コーチに指導を仰ぎました。

Q：中距離をやりつつ、長距離の練習をするのは大変だったでしょう。

A：自分はトラックで世界を目指すつもりでしたから、「箱根のためにロードの練習はしない」と思っていました。覚悟が中途半端だったんですね。夏合宿に参加して初めて本格的な長距離の練習を始めたところ、両方やるのは無理だと痛感しました。箱根まで半年しかない時で、もう長距離をやるしかないと心を決めました。間に合わないかもしれないと思いましたが、10000mの設定タイム

を29分30秒台と決めて、それを突破するよう懸命に走り込みました。

Q：達成できたのですか？

A：11月30日の日体大記録会が箱根駅伝メンバー選考会だったのですが、そこで29分30秒91と、自己ベストを50秒近く更新しました。それで、箱根駅伝エントリーメンバー16人に選ばれました。

Q：選ばれたからには箱根を走りたいかったのでは？

A：メンバーにエントリーされて、キャプテンとしての責任は果たせたいと思っています。選手としてチームを支えることができ、良かったと思います。

Q：キャプテンの役割は？

A：監督と選手の橋渡しですかね。藤原監督は「自分の思っていることは選手に感じてもらいたい」というタイプなので、選手が理解できない時はそれを伝える役目だと思っています。選手には「監督は怖いけれど、コーチは優しい。監督が鞭ならコーチが飴をくれる。そういうやり方で俺たちはやっているんだ」と伝えるのが役割だと思います。

Q：長距離ブロックの主将をしてみて、箱根駅伝をどう思いますか。

A：箱根駅伝はメディア向けになってしまって、学生にメリットがあまりないと感じました。大学や企業が収益やイメージ戦略のために利用するところが見え、メディア的に面白

い方向にいかせようとするのか、在り方が迷走しているように思います。関東以外の大学に広げることも改革のひとつでしょうが、それだと全日本大学駅伝と違いがなくなるという意見もあります。箱根を特別なものにするのは、陸上界の大きな問題だと思います。トラックの選手が育成されていないのも、箱根が一番という今のやり方があるからです。長距離の練習はガマンの練習で、距離を踏むとスピードがおろそかになります。大学もメディアに露出する箱根に注力しますからすべてが駅伝中心になってしまい、トラックで戦える選手が出ないという問題があります。

Q：どんな4年間でしたか。得たものはありましたか？

A：波乱万丈でした。箱根はあまり好きではなかったのですが、まさか自分が箱根を目指すとは思ってもみませんでした。得たものはいろいろ



初々しい表情を見せる田母神主将



中大スポーツ新聞部/恩師・松田監督記事紹介

な経験をさせてもらったことです。中距離の選手でありながら長距離ブロックに所属させてもらったことや、1年の時舟津がキャプテンで、自分が副キャプテンをやらせてもらい、藤原監督のおかげでプロチームでの練習に参加できるようになり、海外遠征にも行けました。日の丸を背負った海外経験は自分のなかで一番大きな財産になったと思います。国際試合が当たり前になって物おじしなくなり、言葉も聞き取ることぐらいはできるようになりました。

Q：将来の設計は？

A：地元の福島で女子のクラブを立ち上げて指導したい。福島は中距離が盛んですが女子の実業団が一つしかありません。そこで、小学生から実業団クラスまでプロのクラブチームを作りたいと思っています。クラブチームで生徒を受け、クラブ対抗の大会に出る、そういう受け皿を作らなければならないし、そういう活動をしてみたい。熱意あるコーチが環境を作って才能のある子を伸ばしていけるような仕組みが要ると思います。

Q：後輩へのアドバイスは？

A：一つの選択が自分の道を決めることになるので、選択する際にはよく考え、一度決めたことには振り返らずに信念をもって突き進んでください。

スポーツの名門校を支える応援団は、リーダー部、チアリーディング部、ブラスコア部の3部構成で成り立ち、通常はリーダー部の男子学生が団長として活躍しています。過去に2代続けて女子団長が誕生した時期もありましたが、まさか華やかに応援を彩るチアリーディングの女性が団長とは誰が予想したのでしょうか？ 今春卒業する若林希・前団長に4年間で振り返りインタビューに答えていただきました。

(聞き手：年次支部協議会広報部 佐藤、柳)



Q：中央大学のチアリーディング部に入部された理由は？

A：両親がOBなので中大を受験しました。身体を動かすのが大好きで、東京の女子高校では新体操をしていましたが、中大には新体操部がなかったので、きちんとした組織に入りたいと思いチアリーディング部に入部しました。当初は他学年と同じ11名入部したのですが、2年になるとこの学年だけ私を含めて4名に減っていました。

Q：それでもやめずに続けてこられた、応援団の魅力とは？

A：チアのメンバーだけでなくブラスコアの仲間達とも一緒に練習や合宿に行ったりして楽しかったので、やめるつもりはありませんでした。でも、実はチアの練習より応援するのが段々面白くなりました。試合、大会などで「絶対勝ってほしい」と祈りながら全力で応援した気持ちを通じ、勝利した時は、至高の喜びがありました。遠征などでも色々な場所に出かけ、沢山の出会いもありとても充実した4年間でした。

Q：団長を引き受けられた時、団長になられてからのお気持ちは？

A：お話があった時はすごく驚きましたが、もうやるしかないという決断には時間はかかりませんでした。

引き受けてからは、さすがにプレッシャー(責任)と不安に押しつぶされそうになりましたが、大好き

な応援を頑張るほど不思議に勇気と力が湧いてきたのと、チーム仲間達の支えもあり乗り越えられました。

Q：団長さんは天性だったかもしれませんが、練習と学業の両立は？

A：チアの練習が週4日のほか、応援団の練習もあり、自宅から通学時間が長く両立も大変でしたが専攻は文学部社会学関連でしたので、幅広い社会学(企業、町などに出向き調査ほか)を研究するのがとても興味深く、さほど苦にはなりませんでした。

Q：卒業後の進路はその方向に進まれるのですか？

A：IT関係(営業)に就職し、これまでの経験値を活かして頑張りたいと思います。

【感想】初めてお会いした時、この人が団長？と戸惑う位、すっかり大人の女性の雰囲気を感じながら、とても笑顔が素敵な方でした。少々のことではめげずに現状を打破していく大変前向きで決断が早い女性だと感心しました。立場が人を育てるということをよく耳にしますが、異色の中大応援団長として見事に花開いた彼女の功績は、まさに勇気を持ってすれば道は開けるということを証明し、後輩に受け継がれて行くことなのでしょう。益々のご活躍をお祈りしたいと思います。すべてやりきった彼女の晴れ晴れとした表情がまぶしく印象的でした。

寄稿 ともに明日へ卒業50年の想い

白門44会支部長 吉永匡宏

今年、東京オリンピック開催の記念の年、卒業シーズンを迎え50年前母校で過ごした日々が昨日のように思い起こされます。1964年10月東京オリンピックが開催され、翌年4月に母校に入学しました。本部の在る駿河台のキャンパスは狭隘で教育環境としては恵まれていませんでしたが、若い優秀な先生方、そして質素勤勉で真面目な学生が多く、司法試験、公認会計士試験はじめ、難関国家試験は他大学を寄せ付けない実績を誇っており、公務員、一般就職も良好でした。そして駅伝、野球、水泳、バレーボールと花形スポーツにおいても好成績を収め、活気が満ち溢れており早慶に迫る勢いを感じました。学生生活後半は全国的な学園紛争の嵐が吹き荒れ、卒業式は中止となり、曖昧な気持ちのまま昭和44年(1969年)社会の荒波に船出することになりました。実社会に出て同窓のご縁で多くの方々との良き出会いがあり、心強く、本当に助かりました。

しかしながら、卒業式への思いは強く同期の松木茂夫氏(初代44会

支部長)の熱意と努力を大学に理解していただき1990年3月「よみがえる卒業式」として卒業20年後に多摩キャンパスで卒業式を挙行していただきました。

卒業式が中止となった昭和44年、45年の卒業生と家族4千有余名が出席、川添学長そして卒業時の戸田修三元学長の祝辞もあり盛大で心に残る式典となりました。これを契機に大学側は同年11月ホームcomingデー第1回開催、昭和44、45年卒業生は同期会を結成、そして30年が経過し今日に至っています。

白門44会では昨年7月6日卒業50周年記念総会開催、8月には記念誌を刊行いたしました。

そして白門44、45会は合同で今年9月13日卒業50周年、「支部創設」「よみがえる卒業式」30周年の祝賀会を開催します。同期のみならず、年次の核として、さらに他の白門会とも連携を深め、白門の絆醸成に一層の努力をしてまいりたいと思っております。未来志向「ともに明日へ」の志を大切に母校中央大学の益々の発展を心より願っております。

報告 万感 豪風断髪式

押尾川親方として再出発

白門44会 池田英子

元関脇豪風の押尾川親方襲名披露大相撲が2020年(令和2)2月1日両国国技館で行われた。

豪風は、中大4年生時に全国学生相撲選手権大会で優勝、卒業と同時に尾車部屋へ入門。2002年(平成14)5月に初土俵を踏んだ。中大時代には大きな相手に渡り合うために一日100番近くをこなし、徹底的に体を苛めぬいたエピソードも残っている。

2014年(平成26)秋場所に戦後最高齢の35歳2カ月で新関脇に、幕内の在位場所数は86場所とベテランになっても活躍、2019年(平成31)の初場所を最後に引退、その闘志あふれる取り口は多くの相撲ファンに愛された。

催しは相撲甚句、初切と続き、豪風「最後の取り組み」は長男の成田海知君(12歳)が相手を務めた。普段は中学時代の父親と同じく柔道に打ち込んでおり、最後は海知君が見事な一本背負いで決め、館内の大声援を浴びた。

十両の取り組みの後、故郷の北秋田市から市民栄誉賞も授与された。



卒業50周年記念総会



卒業50周年記念誌



豪風最後の取り組みは愛息と



クライマックスの断髪式には、満員のファンが見守る中、自民党谷垣禎一前幹事長、秋田県出身の元プロ野球選手石井浩郎衆議院議員や横綱白鵬、荒磯親方（元稀勢の里）、苦しい日々を共に過ごしてきた同門中村親方（元嘉風）、中大の後輩の矢後、中大相撲部監督ら約270人がはさみを入れた。最後は師匠の尾車親方が止めはさみを入れ大銀杏が落とされると新親方押尾川は何度も涙をぬぐった。幕内土俵入り、横綱土俵入り、幕内取り組みと続き、この日の最後はオールバックの髪型にスーツ姿で押尾川親方が登場。「北は北海道から南はインドからお越しいただきましたまして…」と挨拶、笑いを誘った。

他界した両親の遺影を持ち「綱渡りのような人生を歩んで欲しくないと、入門に大反対され、三賞を獲得しても反対していた父母に最後にお疲れさまと言ってもらいたかった」と声を詰まらせた。館内にはお疲れさまのコールが鳴り響いた。

既に尾車親方付きの師匠として後進の指導に当たっているが「ケガに強い力士、礼儀を重んじる力士、勝負強い力士を育てていきたい」と指導者としての決意も新たにした。

涙と笑いに包まれた記憶に残る断髪式だった。

手記 講談師として修業の日々



川崎白門会での高座

私は2009年に商学部会計学科を卒業しました、講談師の一龍斎貞奈と申します。去年は卒業10周年でしたので、友人とホームカミングデーに参加し、そのご縁で今回寄稿を書かせていただくことになりました。思い返せば、入学当時にその時の担当教授から「君、面白いから学内の広報誌に新入生の挨拶を載せなさい」と仰っていただき、その時にも抱負を書いたような覚えがあります。「私は入学して1ヶ月で携帯電話の登録メモリーがいっぱいになるほど、新たに200名近い友達が出来ました!」というようなくだらぬ内容だったと記憶しておりますが、学生の頃から「友達作り」が得意で、人と話すことが好きでした。

それが高じて、卒業後は紆余曲折

一龍斎貞奈さんのプロフィール

静岡県生まれ、2009年中央大学商学部会計学科卒業。幼い頃からアナウンサーになるのが夢だったが、夢叶わず広告代理店に勤務。しかし『CM作るより出る側にまわりたい』との想いから、ナレーターを目指し脱サ

一龍斎貞奈（商学部卒）

を経て講談師という職業に就きました。講談の魅力とは！なんて私が語るにはまだまだ修行不足なのでここでは割愛しますが、「後輩が夢に向かって頑張っているなら応援するよ」と仰って下さる白門OBの多さに日々感謝し、また諸先輩方の白門愛が凄いなと感激しております。

実は昨年、私の恩師である関口定一教授がご逝去されました。大学卒業後もゼミのOB会を開いて下さりそれが大学との貴重な繋がりになっておりましたが、その機会がもう無くなってしまいかと寂しく思っていました。ですのでこれからは、講談を通じて母校との関わりが持てると良いなと思っております。白門OBには講談や落語など演芸界にも素晴らしい先輩方がいらっしゃいます。そんな先輩方のようにになれるよう精進してまいります。



ラ。現在はマクドナルドやP&G、明治乳業など多くのテレビやラジオCMにてナレーションを担当。さらに表現の幅を広げるべく、2015年に講談と出会い一龍斎貞心に弟子入り。現在、講談協会前座として修行中。

地域支部の取り組み紹介

将来のトップアスリートを目指して！

「中央大学バレーボール部と 流山市全中学校バレー部交流会」

流山白門会会長 高橋 洋 (S42年卒)

1月18日(土)中央大学バレーボール部と流山市内中学校バレーボール部の交流会(主催：中央大学学員会、流山白門会支部、NPO法人おおたかスポーツコミュニティ流山、共催：流山市教育委員会、流山市学校支援協働本部)を市内キッコーマンアリーナで開催しました。開会式では流山市の井崎義治市長、後田博美教育長、主催の流山白門会高橋洋支

部長、学員会大木田守副会長が挨拶。市内大会優勝校の中学生主将、副主将が司会、歓迎の言葉、豊田昇平中央大学バレーボール部監督が挨拶と選手紹介を行い、交流会を始めました。

大学生20名から280名の中学生に技術指導や模範演技が行われ、技術指導ではレシーブ、スパイク等の基本的な技に対し易しく丁寧な指導が



開会式にずらりと並ぶ関係者

あり、模範演技では大学生の打球の早さに驚嘆の声を上げていました。途中のモグモグタイムでは、みかんを食べながら大学生と中学生のコミュニケーションが行われ、学生生活等について語り合い交流を深めました。

OB向け経済学部ゼミ学生によるプレゼン大会開催

学員会年次支部協議会・大学学員交流部主催により、経済学部学生による様々な研究テーマをOBに発表するプレゼン大会が、2020年2月1日(土)後楽園キャンパスの3号館ビジネススクールで開催された。4年目になる今年は経済学部伊藤伸介ゼミ1チーム7名、丸山ゼミ2チーム7名の学生14名、指導教員の両教授、OB25名、総勢41名が参加した。

毎年11月に開催される経済学部のゼミ連合大会は伝統行事でもあり、その中から各部門で優秀なゼミが選ばれ表彰される。2019年度優秀賞

を獲得した伊藤ゼミの「観光班チーム」は外国人観光客へのプラン【東北×農泊×留学生】を研究テーマとして、農泊をビジネス化し、外国人旅行者の需要による農泊推進、留学生サポーターなども取り込み地方活性化を考えるプランを発表した。同じく丸山ゼミの「スムージーチーム」は、地元【野菜の消費を通じた健康水準向上と都市部での認知度向上に向けた取り組み】のテーマで岩手県遠野市をフィールドとして地域農産物を使用したスムージーを開発し企業との連携で商品の具体化を目指す

活動を紹介、「食育チーム」は【新規食育プログラムの立案】として6次産業化を通じた地方活性化に関するテーマで、岩手県紫波町の小学生親子に対しての食育プログラム実施報告等の発表等を行った。

それぞれに質の高いプレゼンではあったが、質疑応答ではOBからの社会人の経験に基づく厳しい質問や助言などがあり、活発な意見交換が行われた。このようにOBと現役学生諸君と一緒に日本が抱える課題について考えるのは他になかなか例がなく、双方にとって良い刺激となった。

今回初の立食での懇親昼食会場は、14階からの眺望の素晴らしい部屋でもあり、OBや違うゼミ学生が混ざりあって自由に和気藹々と交流できたのも大きな収穫であった。学生からは是非、今後ともご指導を頂きたいとの声があった。継続は貴重である。



学生によるプレゼン発表



懇親昼食会でOBと交流



モグモグタイムでコミュニケーション

閉会式も市内準優勝校の主将、副主将で運営し、中学生のお礼の言葉、大学生土岐主将の講評、中学校校長会会長の感謝の言葉で閉会しました。終了後は中学生のアーチで大学生とハイタッチして学校ごとに大学生と記念撮影をしました。

中学生にとっては、スポーツの楽しさ、物事に取り組む姿勢を学び、夢と希望を抱く貴重な有意義な時間であったと思います。溢れる笑顔がそれを語っていました。また、各マスコミ（一般紙、地方紙、タウン誌）等多くの取材があり報道されました。中大ブランドの多方面への発信になったと思います。



流山市内全中学校バレー部が大集合



中央大学 バレーボール部
流山市内中学校 バレーボール部 交流会

2020年(令和2年)
1月18日(土) 12:45 ~ 16:00

会場 キョココマコアリーナメインアリーナ(東京都目黒区)
観覧料 流山市内中学校(レール部員450名(9校) 中央大学(レール部部員約30名)
観覧料 小学生・中学生・保護者を含む一般市民(観覧無料) ※必ず上座をご持参ください。
内容 ①技術指導(ト1) ②選手交流タイム「ちぐちぐタイム」
③模擬実技(大学生) ④技術指導(ト2)

※本大会は、2020年1月18日(土)12:45~16:00に開催されます。雨天決行です。雨天の場合は、会場が変更になる場合があります。

【主催】 中央大学バレーボール部 / 中央大学バレーボール部(NPO) 個人おたからプロジェクト(山梨)
【協賛】 流山市教育委員会 / 流山市立総合体育センター
【協賛】 流山市教育委員会 / 流山市立総合体育センター
【協賛】 流山市教育委員会 / 流山市立総合体育センター
【協賛】 流山市教育委員会 / 流山市立総合体育センター
【協賛】 流山市教育委員会 / 流山市立総合体育センター

〈中央大学学生会プレゼンツ〉

キミハルシネマ
フェスティバル

報告

2月23日、多摩センターパルテノン多摩小ホールにおいて、学生会主催、モノレール沿線の多摩白門会支部共催の連携で、中央大学を舞台にした映画が上映された。新進気鋭の若手映画監督が今を生きる若者に贈る「夢」や「希望」を描いた短編三作品。その一作品の【今を憂う君も春になれば】は、2019年劇場公開作品(ミス日本ドキュメンタリー「夢こそは君の生きる未来」併映)で、中央大学在学のミス日本ファイナリスト本山琴美さんを追ったショートドキュメンタリーである。監督は四海兄弟。他に【僕は大丈夫】(小野篤史監督)【アルム】(野本梢監督)の二作品。中央大学ブランド力向上に貢献した初の試みであった。

白門レガッタ2019開催

報告

2019年12月1日、穏やかな日の中、戸田オリンピックボートコースに中央大学の学生会&ボート部共催の「白門レガッタ2019」が開催された。



健闘した総長艇

学生、附属高校、教職員、OB、父母会連合などそれぞれのチームの精鋭が集い、300名近い愛好者が寒冷の季節にも拘わらず、中大水上最速を競った。

開会式では菅原文仁戸田市長にもご挨拶を頂き、酒井中大総長が今年も同期生の艇に乗船され滑り出すと、大声援が沸き起こった。

試合後の交流懇親会では、各部門の順位の発表と表彰で盛り上がり、「ONE-CHUO」の絆がひとつになって老いも若きも全力で汗をかけた心地良い1日となった。

中央大学学生会プレゼンツ
キミハルシネマフェスティバル

令和2年
2月23日(日)
開場 19時00分
開演 19時30分
パルテノン多摩 小ホール
入場料 500円(全席自由)

東京都多摩市高倉2-35
歌王様・小田急線・多摩モノレール 多摩センター駅下車 徒歩5分

今を憂う君も春になれば、
若手映画監督の短編作品、三作品を上映!

上映作品
「今を憂う君も春になれば」(2019年)監督: 四海兄弟
「僕は大丈夫」(2020年)監督: 小野篤史
「アルム」(2020年)監督: 野本梢

大学・学会からのお知らせ

主に活躍した現役学生

【文化・学術部門】

- 「外務大臣賞」、「優秀賞」受賞
外務省主催「第35回国際問題プレ
ゼンテーション・コンテスト」
及川奏(法2) 赤羽健(法1)
- 将棋新人王戦優勝 高野智史四段

【スポーツ部門】

- 男子エイトクルー インカレ
14年ぶり優勝
- 水泳部 男子50m自由形
優勝 川根正大 準優勝 福重智成
女子 同 優勝 大本理佳

- 硬式野球部
東都大学秋季1部リーグ戦
15年ぶり優勝、47年ぶり完全優勝
- 準硬式野球部
東都大学秋季1部リーグ戦優勝
- 軟式野球部
インカレ軟式野球選手権大会優勝
- 陸上競技部
インカレ女子400m優勝 岩田優奈
- 卓球部 インカレ総合卓球選手権
優勝 森田彩音 準優勝 山本笙子
- 剣道部 インカレ剣道大会
優勝(65年ぶり連覇)
- フェンシング部
インカレ男子サーブル団体三連覇

—— 2019年度(第137回)中央大学卒業式・大学院修士学位授与式(予定) ——

- 理系** 日時:2020年3月24日(火)
場所:後楽園キャンパス5号館4階アリーナ
- 文系** 日時:2020年3月25日(水) am.(経・商・総政)、pm.(法・文・大学院5研究科)
場所:多摩キャンパス第一体育館3階アリーナ

—— 2020年度中央大学入学式(予定) ——

- 理系** 日時:2020年4月3日(金)(理工・理工学研究科)13時~
場所:後楽園キャンパス5号館4階アリーナ
- 文系** 日時:2020年4月2日(木) am.(法・文・国際情報・大学院5研究科)
pm.(経・商・総政・国際経営)
場所:多摩キャンパス第一体育館3階アリーナ

学会からののお知らせ

- ▶ 2020年学会全国支部長会議
2020年5月15日14時~
多摩キャンパス(会場調整中)
- ▶ 2020年定時協議委員会・定時学員総会
2020年5月16日(土)13時~
多摩キャンパス(会場調整中)
- ▶ 学員会本部事務局は駿河台記念館
の建て替えに伴い、2020年1月
より2023年頃まで、神保町に一
時移転することになりました。会
議室貸し出し、その他お問い合
せは下記宛てにお願いします。

— 移転先住所 —

〒101-0003
東京都千代田区一ツ橋2-6-3
一ツ橋ビル4階

(東京メトロ半蔵門線、都営新宿線、
三田線 神保町A1出口より徒歩2分、
東西線竹橋1b出口より徒歩6分)

TEL: 03-6261-1615
FAX: 03-6261-1617
MAIL: gakuin-grp@g.chuo-u.ac.jp (4月以降)

学員会から

卒業生全員に卒業を記念して

「卒業記念Mug Cup」を贈呈
(COACH)

~学員間の絆の広がり、学員間の親睦の証~

祝 ご 卒 業



新規会員の参加を歓迎します!!

各年次支部は、同期会の集まりで大学、学員会会員との繋がりで活動しています。

- ▶ スポーツ応援「陸上・水泳・野球・ラグビー他」(箱根駅伝の応援、東都大学野球応援、オリンピック選手などの応援ほか)

各年次支部の活動…好みの活動に任意に参加ができます。

- ▶ 会員間のビジネス交流で人脈の拡大、更に先輩・後輩との繋がりを醸成
- ▶ 趣味の一致で、幅広い交流とコミュニケーションの充実
- ▶ 同期生の各職専門家との交流で、信頼感をもって問題解決への導きを図る
- ▶ 講演会、セミナーなどへの参画により自身の教養などを向上させる

《加入などの問い合わせ》学員会事務局: 03-6261-1615

《年次支部ニュース 第13号》 2020年3月15日 発行

発行者/中央大学学員会年次支部協議会
発行人/半澤 勉
編集/年次支部協議会広報部

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-3 一ツ橋ビル4階
TEL 03-6261-1615
印刷所/株ディスカバー